

「高師浜にミニ砂浜をつくろう会（第4回）」活動の概要

- 日 時 令和元年9月2日（月） 13:00～15:00
- 場 所 高石漁港内広場（高石市高師浜）
- 主 催 CIFER・コア（一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア）
- 協力団体 大阪府水産課・港湾局、高石市、高石市教育委員会、高石市漁業協同組合、大阪湾見守りネット、レッツビギン、NPO 法人大阪府海域美化安全協会、公益財団法人大阪府漁業振興基金栽培事業場、さざなみ会、株式会社総合水研究所（順不同）
- 参加者数 84名（小学生43名）
- 活動内容 13:00 開会
13:10 清掃活動
13:30 植樹セレモニー（黒松3本）
13:50 稚魚放流（ひらめ約50匹）
（高石小学校3年生の児童）
15:00 終了

CIFER・コア 矢持 進 理事の挨拶



今年で高師浜にミニ干潟をつくる活動も4回目となります。豊かで恵み多い海づくりのためには、このような小さな活動であっても継続することがたいへん重要です。

大阪湾は近年、沖合域の水質が良くなり、透明度の上昇、栄養塩レベルの低下が認められていますが、浜寺水路のような湾奥部の港湾域ではまだまだ夏季底層水の貧酸素化や底質の劣化が続いており、環境の改善は十分とは言えません。特に、海辺は垂直な護岸や消波ブロックで覆われ、人が近づきにくくなっています。少しでも、浜辺の復活を果たし、大阪湾に稚魚や稚エビ

の生息場所を創出するこの活動に一人一人の力をお貸しください。本日はよろしくお願いたします。

阪口 伸六 高石市長のご挨拶



素晴らしい天候の下、今年もCIFER・コアのおかげで古くから残る砂浜の保全活動が行われ、心からお礼申し上げます。

今年の10月には、東京オリンピック・パラリンピックの漕艇スペイン代表チームが、高石市にある大阪府立漕艇センターに練習に来ることが決定し、大変嬉しく思っています。これもマリナーや漁業関係の方々に素晴らしい海を守っていただいているということであり、そのおかげで高師浜や浜寺水道が生き続けることとなります。

8月18日には「高石シーサイドフェスティバル」として、浜寺公園内で花火大会を開催し、4万人弱の人々で賑わいました。このことから、高師浜や浜寺水道を見直す機会になりました。

また、高師浜駅は今年で100周年を迎えることとなり、10月26日には子供たちにも喜んでもらえるようなイベントを開催したいと考えています。皆様にもご協力をいただければと思います。

海の保全には継続が大切で、高師浜や浜寺水道を次の世代に継承していくことが、私たちに課せられた使命だと思っております。

栽培事業場 米田 佳弘 場長のお話



みんなの街にお魚を取る漁師さんがいるのは知っていますか？船がたくさん見えますね。この船で海に出てお魚を取ってきます。君たちは日ごろ自分の街の漁師さんが取ってきたお魚を食べているかもしれません。もう少し高学年になったら社会の授業で「漁業」を習うと思いますので、今日の体験を覚えていてください。

おじさんは漁師さんが取ってきたお魚を増やすお仕事をしています。魚を卵から大きくして、それを海に放してあげるお仕事です。今日はみんなにもそのお手伝いをしてもらいます。

今日放流するお魚の種類はヒラメです。このヒラメはひな祭りの日に生まれました。今日で6か月。ヒラメは平べったい形をしています。はじめからこのような形だったわけではありません。平たいのは底に沈んでエサを食べるため、1センチにもならない子供の時は、金魚のように右にも左にも目がついていて、そこから右の目が頭を超えて左側に移動します。そして左の方に2つの目が並んで付くという不思議な魚です。こうなると普通に泳いでいたのが海の底で生きていくようになります。ヒラメの背中茶色をしているけど、お腹の方は真っ白です。放流するときに確かめてみてください。

ヒラメは今日までは水槽でご飯をもらって生きてきたけれど、海に放した瞬間からは自分で食べるものを探さないとはいけません。だから、一生懸命に生きて大きくなってくれるように願って放してあげてください。

みなさんがこのヒラメのためにしてあげられることがあります。ヒラメは海に住んでいますね。だから、住んでいる海の水を汚さないことです。海にゴミを捨てない、汚い水を流さない。それを約束できる子が放流に参加してもらいます。約束できますか？

放流する前に生きたお魚を触ってみてください。ヌルヌルしています。それが生きている証拠です。ヒラメのお父さん、お母さんは大きさが80cmくらいあります。お母さんの方が大きいのですが、それは卵をたくさん生むためだと考えられます。

放流するときは優しく放流してください。乱暴に投げってしまうとケガをしてしまいます。「大きくなってね」と声を掛けて放流してあげてください。今日のヒラメが海で大きく育ったら、いつか君たちが食べることもあるかもしれません。

◆砂浜清掃

砂浜にはそれほどゴミが散乱しておらず、一見きれいに見えましたが、護岸の近くには風に吹き寄せられたプラスチックゴミなどが溜まっていた。当日はビニール袋40袋程度のゴミを回収しました。



◆クロマツの植樹式



15本のクロマツ並木が完成



◆稚魚放流

稚魚放流について栽培事業場の米田場長から説明を受けた後、高石小学校の児童によるヒラメの放流が行われました。



ヒラメは大人の手のひらほどの大きさ⇒



■事務局より

秋雨前線停滞の中で久しぶりの晴れた日に、4回目の「高師浜にミニ砂浜をつくろう会」活動を開催することができました。

まず、砂浜の清掃では大きな台風がまだ来ていないせいか、ゴミの量もそれほど多くなかったようです。また、砂浜の形状は侵食されずに安定しているため砂の補給は行いませんでした。植樹では、今回3本の黒松を植えたことにより、合わせて15本の松並木が完成しました。

稚魚放流では、43名の高石小学校3年生がヒラメを放流しましたが、バケツの中のヒラメが例年より大きかったせいか、目を輝かせて見入っていました。

終わってからの感想は、一斉に「楽しかった！」との声があがりました。今後子供たちにとっての貴重な体験として記憶に残ってほしいものです。

イベント後のアンケートには、高石小学校3年生の児童から次のような感想が寄せられました。

- ヒラメに長生きしてほしいと思います。
- ウロコの向きがちがうだけでザラザラしているのがびっくりしました。
- 魚はこわかったけど、魚や海の勉強はすごくしてみたいなと思いました。
- ヒラメの後ろが真っ白でびっくりしました。さするとヌルヌルしていました。楽しかったです。
- 最初はさわりたいかと思いましたが途中から楽しくなってきて、またやりたいと思いました。
- 私は魚がにがてでさわれませんでした。でもすぐなれました。
- ヒラメの体がヌルヌルしてたけど、きれいだった。
- ヒラメをさわったことがうれしかった。